



1 ミツバチ

ミツバチは、ほかの昆虫のように仮死状態
 で冬越しするのではありません。
 巣の中で1つに固まり、ハチミツを消費
 しながら厳しい冬を耐えます。
 巣の中で何重にも重なり1つになることで、
 熱を逃がさないようにしています。
 外側にいるハチはからだが冷えてくると、
 かたまりの中にもぐりこみ、内側のハチは、
 からだをふるわせて、熱をつくりだします。



写真参照「カラー自然シリーズ41 ミツバチ」偕成社

2 ユリカモメ

ユリカモメはくちばしの赤い小型のカモメです。
 冬鳥として、国内の海岸や河川、河口、
 沼地などにやってきます。
 魚をつかまえるほか、死んだ魚なども食べます。
 オスとメスは同じ色ですが、冬羽は頭が白い
 のに対し、夏羽は頭が黒色になり、別の鳥
 のように見えます。



図参照「小学館の図鑑NEO 鳥」小学館

3 ナナホシテントウムシ

ナナホシテントウムシは、ほかのテントウムシの
 ように大集団はつくりず、数匹が集まって、
 落ち葉の下やススキの株の根元などで冬を
 越します。成虫で冬越しするのがふつうですが、
 西日本では卵から幼虫までの、さまざまな
 段階で冬を越す例も観察されています。



写真参照「昆虫の生態図鑑」学研